

【仕事の便利術】

上手な
発想・思考・創意工夫・改善提案



はじめに

発想・創造・創意工夫で 仕事をおもしろくしよう

毎日のいつもの生活、仕事の中で、「何かおもしろいことはないかな～」と、思うことがあります。「おもしろいこと」をつくるのが仕事のかたもいらっしゃるかもしれません。

「おもしろいこと」とはどのようなことでしょうか。冗談を言って笑うこと、ふざけることも、おもしろいことです。

しかし、「仕事がおもしろい」というのは、自分の好きな仕事をしているとき、やりがいのある仕事をしているとき、職場の人たちとチームワークで何かをやりとげたとき、お客さまに「ありがとう」と言われたときなど、仕事に積極的、能動的に取り組んでいるときに感じるのではないのでしょうか。

このように仕事をするには、職場の問題を解決しようという意志、もっと良くできるのではないかと改善しようというやる気、仕事を楽しもうとする心構え、さらに、それらをロジカルに考え、具体的に実行するための方法を身につけることが必要です。

このテキストでは、問題の発見から解決、職場の改善・改革を、「発想」、「創造」、「創意工夫」をキーワードに考えていきます。

毎日のいつもの生活、仕事があるということは、ある意味では、とても幸せなことです。しかし、経済状況、社会環境など変化の激しい世界で、企業が、また、企業で働く私たちが生き残っていくためには、私たち自身が変化しなければなりません。

どのように仕事をしたら、「おもしろい仕事」ができるのか、毎日、積極的に考え、アイデアを出し、行動しましょう。

本講座が、創意工夫をしながら、職場を活性化するヒントになることを願っています。



[仕事の便利術] 上手な発想・思考・創意工夫・改善提案

はじめに	3
------	---

第Ⅰ部 知識を知恵に変換する上手な発想・思考の方法 5

第1章 改善・改革を実現する発想・思考のすすめ方 6

1 課題を発見することが最優先事項	6
2 課題や問題点の探し方	8
3 仕事を流れて見てみよう	10
4 利益をもたらす改善・改革の発想	13
5 問題のない仕事はない（問題発見の視点）	14
6 事実を事実として捉えよう（データの重要性）	16
7 収集したデータを意味のある情報に編集する	19
8 知識を活用し、情報を体系化する	22
9 知識を活用し、問題解決に知恵を働かせる	24
10 解決策の検討ステップ	26
11 思いつきやアイデアを具現化する	29
12 アイデアを生み出しやすい発想法とは	31

第2章 アイデアを生み出す創造思考のヒント 32

1 創造思考が求められる	32
2 結合発想—創造の基本	36
3 逆発想—目からウロコ	38
4 借用発想—ヒントは他所にある	40
5 転用発想—新用途で活用	42
6 観察力を鍛える	44
7 Uターン思考で創造思考する	46
8 欠点列挙法—アラ探し発想	48
9 アイデアの質は量に比例する	50
10 創造と判断	52
◆研究課題Ⅰ	54

第Ⅱ部 仕事の効率化を促進する創意工夫・改善提案の仕方 55

第3章 改善のねらいと実際のすすめ方のポイント 56

1 仕事のプロセスや仕組みの問題をどう改善するか	56
2 ものづくりの現場の改善活動にどう取り組むか	63
3 システム化を業務効率の向上にどうつなげるか	69
4 部門による改善のターゲットの違いを知ろう	72


第4章 創意工夫を具現化する上手な改善提案の仕方 74

1 アイデアを創意工夫に結実させる	74
2 先人の知恵や発想法を改善に活かそう	76
3 自己完結型の仕事やりがいを生み出す	78
4 みんなの知恵を結集する創意工夫	80
5 改善活動を人材育成に活かすヒント	82
6 “改善提案活動”を“創意工夫活動”に深化させよう	84
◆研究課題Ⅱ	87

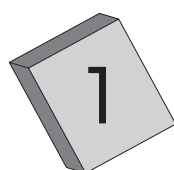
第I部

知識を知恵に変換する
上手な発想・思考の方法





改善・改革を実現する 発想・思考のすすめ方



1 課題を発見することが最優先事項

先行きの見とおせない経済状況が続き、国内市場の伸びが期待できない中で、各企業は海外市場に活路を模索するなど、生き残りをかけた厳しい経営を強いられています。

経営とは
経営活動

経営とは「常に倒産に向かう力との戦い」とも言われていて、日々の**経営活動**は「競合に勝つための活動」でなければなりません。同業者すべてが、同じ条件下にあります。つまり、自分たちの会社だけがこのような状況に置かれているのではないということを理解しなければなりません。私たちがこのことを、どれだけ深く認識しているかどうかで、私たちの仕事の中身も変わり、会社全体での活動にも大きな差が生まれ、業績の差につながっていきます。

継続的改善

厳しい経済環境下では、日々の仕事そのものが会社の生き残りをかけた戦いであり、改善・改革の手を次々と打っていかなければなりません。現状でよいと考えた時点から下降線をたどるのが会社経営の宿命であり、蓄えた資金も商品価値もあつと言う間に消えてしまいます。**継続的改善**を求めている理由がそこにあるのです。

「私たちの職場はもう改善するところがない」、「改善はやりつくした」、「何を改善すれば良いのか」といった声をよく聞きますが、このような

感覚・雰囲気職場に蔓延する会社は、その時点で停滞し市場競争に打ち勝つことはできません。常に市場競争の中にあり、他社より**はやく、安く、より良いもの**を、という思考で自分の職場を見ることによって、多くの課題が発見できるのです。

はやく、安く、
より良いもの

職場では、一人ひとりの**課題を発見する力**が必要です。課題が見えない人がいくら**改善活動**を実践しようとしても、課題がないのですから改善はできません。重要なことは、「改善しろ！」と言われるから、「やる？」というのではなく、**使命感**を持って、自らが課題を発見し、その課題を解決するということです。

課題を発見する力

改善活動

使命感

何が問題なのかがわかれば、その問題を解決する手法・方法・手段はたくさん存在しています。その手法を駆使できる人、データを解析できる人、技術に詳しい人などの人材が集まって改善チームを設立すれば、必ず解決策を生み出すことができます。

こうして課題・問題点の発見は最優先で取り組むべき活動と言うことができます。

共通認識を持って働こう

会社は利益をあげることによって社会に貢献しています。そのために、私たちは、「思想」(考え方)、「武器」(ツール)、「活動」の3つの点を職場の共通認識として持つて働くことが重要です。

